

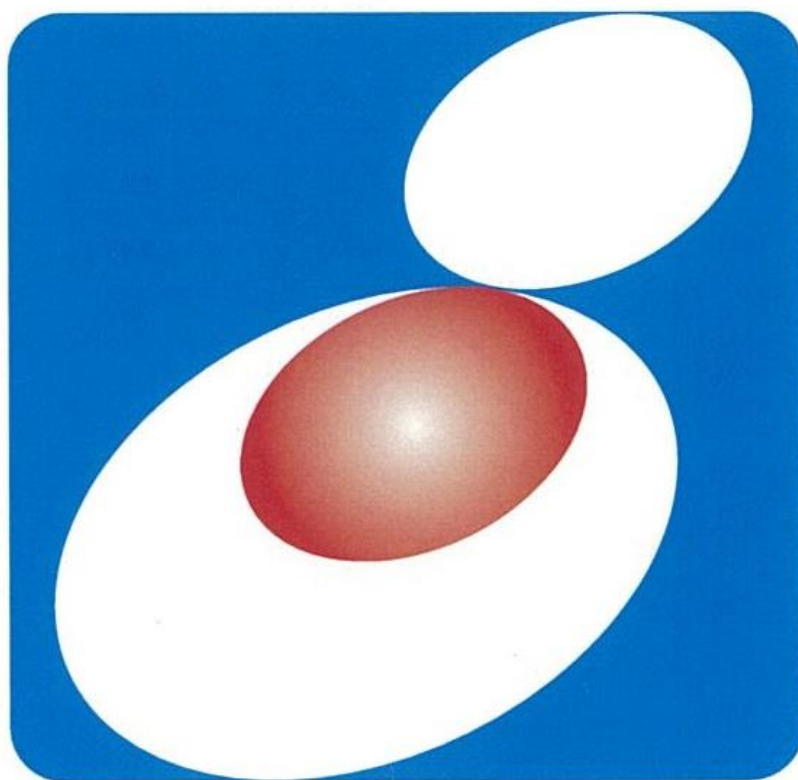
環境活動レポート



(対象期間: H27年10月1日～H28年9月30日)

エコアクション21
認証・登録番号 0009643

お湯・水・ガス



株式会社 いち商会

作成日: 平成29年7月1日

目 次

	P
【1】 組織の概要 1
【2】 環境方針 2
【3】 環境管理組織図 3
【4】 環境目標と取組結果 4
【5】 環境活動計画及び実施状況 5
【6】 環境活動計画の評価と次年度の取組 6～9
【7】 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の対応 10
【8】 緊急事態の想定及び対応マニュアル 11～12
【9】 代表者による全体の取組状況の評価と見直しの結果 13

1. 組織の概要

- 1) 事業所名 株式会社 一商会
- 2) 代表者氏名 代表取締役 館林 俊晃
- 3) 所在地 〒417-0001 静岡県富士市今泉2568の1
- 4) 事業内容 管工事業 給排水衛生設備工事・住宅設備機器販売・設計施工
LPG事業 液化石油ガス販売・ガス機器販売・設計施工
- 5) 従業員数 24名 (内女性6名)
- 6) 環境管理責任者 館林 俊晃
環境管理担当者 中島 高枝
- 7) 連絡先 TEL (0545)-21-1319
FAX (0455)-21-6965
(E-mail tatebayashi@ichishoukai.com)
- 8) 一般建設業許可 土木工事業 とび・土工工事業 管工事業 ほ装工事業
静岡県知事許可 (般-28) 7698号
有効期間 H28.5/22~H33.5/21
- 9) 産業廃棄物収集運搬業許可 静岡県知事許可 第02201169351号
実績無し 有効期間 H28.5/22~H33.5/21
- 10) 液化石油ガス販売事業 登録番号 22B1803 H9.4/1~
- 11) 事業の規模 活動規模 平成28年度
売上高 889百万円
床面積 734.98㎡
同一敷地内 (事務所209.13㎡ 倉庫332.55㎡ 資機材置場193.3㎡)
- 12) 事業年度 10/1~翌年9/30
- 13) 認証登録範囲 会社全組織

2. 環境方針

株式会社 一商会 環境方針

《環境理念》

(株)一商会は、自然豊かな静岡県に位置し、LPG販売、給排水衛生設備工事業を通じ美しい近隣の自然、さらには、地球環境を守るために、環境に配慮したサービスの提供に努め、積極的に環境保全に取り組む企業を目指します。

《基本方針》

当社は、環境負荷の低減と環境システムを構築し、環境負荷を軽減すると共に活動に取り組めます。その為に、次項を実行する事によって、継続的な改善と汚染の防止に努めます。

1. 環境負荷の低減と環境保全活動への取り組み。

- ① 省エネ(電気・化石燃料)推進によるCO2削減の為の活動に取り組めます。
- ② 廃棄物の削減に努め、リサイクルを推進します。
- ③ 水資源を有効活用し、節水に努めます。
- ④ グリーン商品の調達活動に取り組めます。
- ⑤ 建設工事は環境に配慮した工事を実施致します。

2. 環境関連法規制及び協定の遵守。

- ① 環境に関する法規制及び協定を遵守致し、法規制に対し、責任・信頼感のある企業を目指します。
- ② 建設リサイクル法による適正処理を致します。

3. 環境コミュニケーションの積極的実施

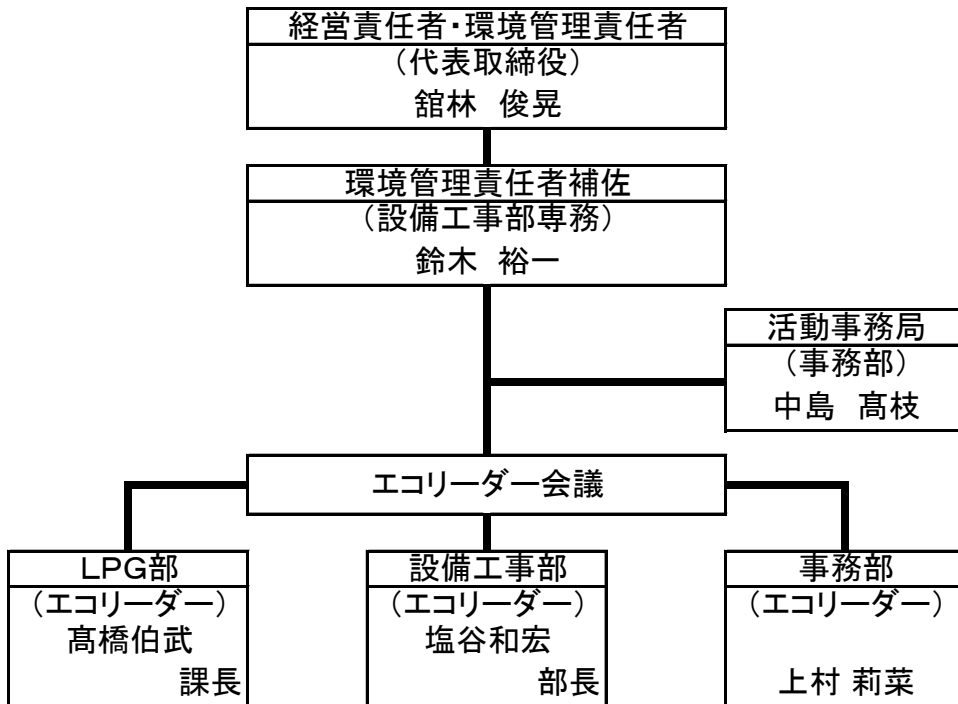
- ① 環境に配慮した活動の目標を設定し、環境目標の達成状況及び活動計画の実施状況を定期的に確認・評価し、環境管理システムを継続的に改善致します。
- ② 全社員が環境方針を理解し、それを周知徹底すると共に、この方針を掲示し社員教育を計画的に実施し、環境問題への意識向上を図ります。
- ③ 会社周辺の清掃活動を実施します。

制定年月日 平成25年10月1日

株式会社 一商会

代表取締役 舘林 俊晃

3. 環境管理組織図



《環境管理組織における機能》

経営責任者

- ①エコアクション21に関する代表責任者
- ②エコアクション21実施における人材・設備・費用を用意する
- ③環境方針の制定・改訂及び全社員への周知
- ④代表者による全体の評価と見直しを実施する

環境管理責任者・環境管理責任者補佐

- ①環境マネジメントシステム全体の構築・運用・維持に関する実務上の権限
- ②環境マネジメントシステムの構築・実施及び運用管理
- ③環境事務局の文書作成案に対するチェック及び改訂の指示
- ④緊急事態の試行及び訓練の実施の為の計画立案

事務局

- ①エコアクション21における文書の作成
 - ・環境目標及び環境活動計画案の作成
 - ・環境関連法規等の取りまとめ及び遵守状況のチェック
 - ・取組に必要な場合の手順書作成
 - ・事故及び緊急事態の想定結果及びその対応策の策定
 - ・環境の負荷・取組の自己チェック
- ②環境活動レポートの作成

各部門エコリーダー(LPG部・設備工事部・事務局)

- ①各部門における環境マネジメントの実施
- ②月別部門データの集計
- ③問題点の把握と予防措置の実施

エコリーダー会議

- ④月1回 第2木曜日 環境活動の推進について打合せ
- ②週1回 週の達成状況、朝礼で発表。話し合い

全社員

- ①環境方針の確認・理解
- ②各個人における環境マネジメントシステムの実施

4. 環境目標と取組結果

1. 環境目標

電力二酸化炭素換算係数：(0.525)

項目	単位	H23.10～H24.09 24年度基準年	H24.10～H25.9 25年度目標	H25.10～H26.9 26年度目標	H26.10～H27.9 27年度目標	H27.10～H28.9 28年度目標	H28.10～H29.10 29年度目標
二酸化炭素総排出量	kg-CO2	121,616.63	-1.0%	-1.5%	-1.5%	-1.0%	-0.5%
購入電力	kWh	21,908.00	-1.0%	-1.5%	-2.0%	-2.5%	-3.0%
ガソリン	L	44,677.53	-1.0%	-1.5%	-1.5%	-1.0%	-0.5%
軽油	L	2,892.56	-1.0%	-1.5%	-1.5%	-1.0%	-0.5%
LPG	kg	1,463.00	-1.0%	-1.5%	-1.5%	-1.5%	-2.0%
一般廃棄物 排出量	t	7.42	-1.0%	-1.5%	-2.0%	-2.5%	—
一般廃棄物リサイクル率	t	—	—	—	—	基準年100%	100.0%
産業廃棄物 排出量	t	167.41	-1.0%	-1.5%	-1.5%	実績把握	実績把握
産業廃棄物リサイクル率	t	—	—	—	—	96.9%	97.0%
水道総排水量	m ³	243.00	-1.0%	-1.5%	-1.5%	-2.5%	-3.0%
環境配慮型工事	件	—	施工等の検討	施工等の検討	施工等の検討	施工等の検討	施工等の検討
グリーン購入率向上	円	—	現状把握	品目+1%	品目+2%	品目+2%	品目+2%

* * LPGの数値27年度より25年度の数値を引用して基準年とする。(当初の24年度数値に集計ミス有りの為)

* * 27年度の実績から目標を達成できたものは設定を上げる。

* * 27年度の実績から目標を達成できなかったものは設定を下げる。

* * 廃棄物は28年度を基準年として、量ではなくリサイクル率を目標値とする。(目標100%)

2. 実績推移

項目	単位	H23.10～H24.09 24年度基準年	H24.10～H25.9 25年度実績	H25.10～H26.9 26年度実績	H26.10～H27.9 27年度実績	H27.10～H28.9 28年度実績	前年比
二酸化炭素総排出量	kg-CO2	121,616.63	151,249.14	158,403.16	146,091.11	145,223.45	-0.6% ^①
購入電力	kWh	21,908.00	21,181.00	18,574.00	19,767.00	18,679.00	-5.5% ^②
ガソリン	L	44,677.53	55,339.33	58,123.86	52,297.92	51,359.69	-1.8% ^③
軽油	L	2,892.56	3,258.03	3,976.01	4,403.11	5,194.40	18.0% ^④
LPG	kg	1,463.00	1,463.00	1,090.48	912.80	847.90	-7.1% ^⑤
一般廃棄物排出量実績把握	t	7.42	4.68	6.23	5.97	6.02	0.8% ^⑥
一般廃棄物リサイクル率	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
産業廃棄物排出量実績把握	t	167.41	306.03	400.11	273.63	267.31	-2.3% ^⑦
産業廃棄物リサイクル率	%	98.5%	90.0%	96.5%	96.3%	96.9%	97.0%
水道総排水量	m ³	243.00	255.00	274.00	219.00	186.00	-15.1% ^⑧
環境配慮型工事	件	—	件数把握	件数把握	件数把握	件数把握	件数把握
グリーン購入率向上	円	—	19品目	24品目	26品目	26品目	±0 ^⑨

3. 目標値及び取組結果

項目	単位	28年度	H27.10～H28.9		達成状況
		目標値	実績	評価	
二酸化炭素総排出量	kg-CO2	120,400.46	145,223.45	目標値は達成出来なかった。	×
購入電力	kWh	21,360.30	18,679.00	目標値は達成出来た。	○
ガソリン	L	44,230.75	51,359.69	目標値は達成出来なかった。	×
軽油	L	2,863.63	5,194.40	目標値は達成出来なかった。	×
LPG	kg	1,441.06	847.90	目標値は達成出来た。	○
一般廃棄物排出量実績把握	t	7.23	6.02	目標値は達成出来た。	○
産業廃棄物排出量実績把握	t	実績把握	267.31	目標値は達成出来た。	○
産業廃棄物リサイクル率	%	96.90	97.00	目標値は達成出来た。	○
水道総排水量	m ³	236.93	186.00	目標値は達成出来た。	○
環境配慮型工事	件	施工等の検討	件数把握	施工実績は有るが、統計を取れていない	×
グリーン購入率向上	円	26品目	26品目	事務・現場用品等で、環境配慮品目有り	○

＜3年間取組結果＞

- ① 目標値には達成できないが、前年度より**-0.6%**全体として減った。
- ② 目標達成。昨年より**-5.5%**も削減。基準年より**4年連続減少**効果が見られた。
- ③ 目標値には達成できないが、前年度より**-1.8%**減った。
- ④ 自社・レンタルの重機等に使用する為遠方の現場稼働率に比例して増えてしまった。
- ⑤ 目標値達成。前年度より**-7.1%**減った。
- ⑥ 売上高に比例して段ボール・発泡スチロールは排出量が増えてしまう為、今年より目標値と設定しない。
- ⑦ 基準値の**159.67%増**。完成工事高の比例にしてもかなり多い。しかし昨年より**-2.3%**減ってはいる。
- ⑧ 目標達成。2年連続減少昨年度より**-15.1%**減。
- ⑨ 目標達成。毎年少しずつ増やしていきたい。
- ⑩ 今年より廃棄物の目標値をリサイクル率とする為、実績値は把握とします。

5. 環境活動計画及び実施状況

H27. 10～H28. 9

目的	区分	項目	担当	取組内容	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月			
二酸化炭素排出量の削減	電気使用料削減	照明	各自	①使用時以外消灯の徹底	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
				②退社時のエリア消灯	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
				③使用していないトイレ消灯	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		空調	社員一同	①冷暖房機の温度設定 見直し	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	
				②冷暖房機のフィルター定期清掃	—	—	○	×	×	—	—	○	—	×	×	×	×	×	
				③クールビズ、ウォームビズ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
				④使用していないエリアの空調停止	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	○
				⑤扇風機の併用 温度設定との兼合い	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○	○	○	○
		OA	各自	①使用時以外パソコンの電源OFF徹底	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	△	△	△	
				②モニターの電源OFF徹底	△	△	○	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○
		中島		・電気ポット 保温機能のOFF	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○		
	燃料使用料削減	乗用車トラック	社員一同	①エコドライブ運転の徹底	○	○	△	△	×	×	×	×	○	○	○	○	○		
				②アイドリングストップ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
				③日常・定期点検の実施	×	△	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○
				④不必要な荷物は積み込みしない	×	○	○	○	△	△	○	○	×	○	○	○	○	○	○
				⑤車のエアコン設定温度見直し	○	○	○	○	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○
				⑥アイドリングストップ	△	○	○	○	△	△	△	○	×	○	○	○	○	○	○
		重機	社員一同	⑦日常・定期点検の実施	△	○	○	○	△	△	△	○	×	○	○	○	○	○	
				⑧暖気運転を長く行わない	×	×	×	△	×	×	—	—	×	○	○	○	○	○	
				・車両購入にエコカーの導入検討	△	△	△	△	○	×	○	△	△	△	△	△	—	○	○
	廃棄物排出量の削減	事務所	各自	①コピー使用量削減(裏面使用・ミスコピー防止)	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○		
				②封筒・クリアファイルの再利用	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
				③事務用品の集約化購買	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○
④FAXのPDF化検討				×	×	×	×	×	△	×	×	×	—	—	—	—	—	—	
⑤裏白紙の再使用				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
⑥紙ゴミの分別による再資源化促進(業者委託)				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
⑦エコキャップ運動の参加				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
⑧ペットボトル・缶の分別				○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	
建設現場		現場従事者	①混廃棄物の分別化 検討	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
			②分別ゴミのリサイクル率の向上を図る	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
			③産廃をマニフェストにて確実に把握・記録	○	○	○	○	△	△	○	—	—	—	—	—	—	—	—	
			④仮設資材、用具のリユース化 検討	—	—	—	—	△	△	○	—	—	—	—	—	—	—	—	
			⑤金属ゴミの分別による再資源化促進(業者委託)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
			⑥不用ポンペ・消火器等の回収	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
排水の削減	水使用量	各自	①節水表示	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
			②洗車時節水	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
			③漏水の定期的チェック	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
			④事務所内の洗濯まとめ洗い	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
グリーン購入	事務用品	事務員	①環境ラベル対応品の購入(エコマーク・グリーン購入法)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	○	×				
			②何回も使える物購入(トナー・インク等)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○		
			③小さい容器～大きな容器へ	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○		
	建設資材	現場	①グリーン購入対象品購入検討	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○			
②現場使用砕石等は再生砕石を使用			○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	×	○	○	○			
環境配慮	特定工事	現場	①特定工事での施工計画への反映	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
			上記①に係った場合件数記入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
			②環境配慮工事の提案	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
			上記②に係った場合件数記入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
地域貢献	社員一同		①近隣道路清掃	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
			②町内子ども会御祭休息場所提供(トイレ等貸出)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	—	—		

6-1. 環境活動計画の評価と次年度の取組

目的	区分	担当	種別	取組内容	評価	取組結果(原因)
						次年度取組内容
二酸化炭素排出量の削減	電気使用料削減	各自	照明	①使用時以外消灯の徹底	○	消し忘れ等が目につく。短時間の退室でも意識的に消灯を心掛けたい。 昼間は事務所内有人エリアのみ点灯。在室者が気が付き消灯。
				②退社時のエリア消灯	○	ほぼ100%達成されている。 声掛けにより意識の維持を行い活動を継続する。
				③使用していないトイレ消灯	○	基本は入口のスイッチでON・OFFなので、100%は実施されている。 今後も継続する。
				取組後評価(原因)		PCの電源落とさない人が結果退出時照明も消さない。 -1088kwh となっている。
				今後の取組		各人は基より、回りも注意を払って引き続き消灯活動を徹底を実施する。
		社員一同	空調	①冷暖房機の温度設定 こまめに調整	×	冬場はガスストーブでエリア暖房するが夏場は建物の構造上日中温度下がりにくい。 室内の人数や、来客時。昼間と夜。臨機応変にこまめに見直す。
				②冷暖房機のフィルター定期清掃	△	12月の大掃除の時期と冷房シーズン始めに清掃をしました。 暖房シーズンに後一回取り入れる。
				③クールビズ、ウォームビズ	○	各自で工夫して体温調節を取る。夏事務服を取り入れた。 年間を通じて、個人が工夫をして対策をとるよう再度推奨し活動を継続していく。
				④使用していないエリアの空調停止	×	事務員だけの時は冷房1台でもOK。朝晩はOFFでもOK。 在室者が気をつけてOFFにする。
				⑤扇風機の併用 温度設定との兼合い	○	台数を増やしたので夏場は利用が拡大。 事務所内にて活用。人が多いときは特に活用する。
				取組後評価(原因)		エアコンを使わない時間を増やしている。扇風機の活用で効果がある。
				今後の取組		夏場温度管理は室温管理控え目に暖房も控えていく。不在時の電源OFFで啓蒙活動実施していきたい。
		各自	OA	①使用時以外パソコンの電源OFF徹底	△	女性社員は、ほぼ達成できているが、男性社員は理解不足がまだある。 事務所内不在時、帰宅時必ず電源OFF。スリープモード活用。
				②モニターの電源OFF徹底	△	女性社員は、達成できているが、一部男性社員の、消し忘れが見られる。 スクリーンセーバーの起動15分以内。30分以内の自動省エネ設定をする。
				取組後評価(原因)		パソコンの入替によって改善がある。
				今後の取組		使用していないパソコンの電源OFF
		中島	その他	・電気ポット 保温機能のOFF	×	夏場保温のみでの使用を心掛けた。 電機OFF保温のみの時間に切り替えていくよう活動を継続する。
				取組後評価(原因)		来客時の対応に不便の為保温時の通電は必要でした。
				今後の取組		常時保温ポットとして使用する場合、設定温度を下げる

6-2. 環境活動計画の評価と次年度の取組

目的	区分	担当	種別	取組内容	評価	取組結果(原因)	
						次年度取組内容	
二酸化炭素排出量の削減	燃料使用料削減	社員一同	乗用車	①エコドライブ運転の徹底	○	エコドライブモードを理解してもドライバーが使いこなせてない。-1436.93ℓとなる。 高速運転・重量物積載等エコモード外した場合元に戻すことを忘れずに。	
				②アイドリングストップ	○	ほぼ達成できていた。 意識改革を今後も声かけで実践していく。	
				③日常・定期点検の実施	×	法定点検等は守られて実施しているが、日常的に行う事は困難。 走行距離かなりいっている車の故障が増えているメテをしっかりとしたい。	
				④不必要な荷物は積み込みしない	○	例年12月に整理する社員が多く見られた。今期は長期休みの前にも片づけが見られた。 継続した啓蒙により活動を実施していく。	
				⑤車のエアコン設定温度見直し	×	各自の意識であるが、現場の仕事の人はどうしても設定が高め低めとなるようです。 冷やし過ぎないように、こまめに温度風量の調節をするよう努めるよう啓蒙。	
			取組後評価(原因)		ガソリンの使用量は2年続けて減少。エコカー導入効果があった。		
			今後の取組		エコドライブの啓蒙だけではこれから、削減が難しいので買換え時エコカー導入検討してもらいたい。		
			重機	①アイドリングストップ	×	寒い時期は守られなかったようでした。 旧型車両の為、気をつけながら運転	
				②日常・定期点検の実施	×	メーカー点検は実施できなかった、日常的にも個々で行われていなかった 継続した啓蒙により活動を実施していく。	
				③暖気運転を長く行わない	×	旧型の為、トラブルが多く必要でしたが、1台廃車。 今後も残り1台もエコ運転を啓蒙。	
		取組後評価(原因)			遠方での現場使用レンタル重機への軽油給油増 +831.7ℓ となった。近郊での軽油 -0.41ℓ		
		今後の取組			現場でもエコドライブの意識を持つよう啓蒙活動を実施していきたい。		
		グリーン購入等	事務用品	各自	①環境ラベル対応品の購入	×	[エコマーク] 17品目 [グリーン購入法] 6品目 [環境に優しい資源再利用] 1品目 再度エコマーク等の商品の確認を行い購入品目を増やしていきたい。
					②詰替え商品・リターナブル容器・リサイクル品の購入	○	トナー・インク等はリサイクル品使用、使用済みは回収リサイクルする。ボールペン・ソープは詰替えで対応 今後も継続してリサイクル品目の優先購入・使用を徹底する。
③小さい容器～大きな容器へ	○				クリップ・輪ゴム・糊・ファイルなど大きい容器、大箱などで環境負荷軽減した。 今後も継続して品目を増やしていきたい。		
取組後評価(原因)					調べ始めると品目が増えていた。		
今後の取組					継続して実態調査に取組み、エコマーク・グリーンマーク・環境負荷軽減の商品を購入するよう努める。		
建設資材	現場従事者				①グリーン購入対象品購入検討	×	エコマーク商品利用はあるが、把握できていない下請受注工事が多いため提案難しい。 実態調査し、使用可能な現場はエコ商品の材料・設備等を提案していきたい。
					②現場使用砕石等は再生砕石を使用	○	再生材の積極的な利用を推し進める事が出来た。 今後も継続していきたい。
			取組後評価(原因)		現場の資材等のグリーンマークの把握が出来なかった。		
今後の取組			継続して実態調査に取組み、エコマーク・グリーンマークの商品を購入するよう努める。				

6-3. 環境活動計画の評価と次年度の取組

目的	区分	担当	種別	取組内容	評価	取組結果(原因)					
						次年度取組内容					
廃棄物排出量の削減	事務所	各自	紙類	①コピー使用量削減(両面使用・ミスコピー防止)	×	コピー・紙使用量共増量。 +39496枚 今期より両面印刷の需要家便り作成の為。次年度以降もコピー機にて毎月3000枚お便り両面印刷の為枚数増予定ミスプリント削減					
				②裏白紙の再使用	○	メールも裏紙プリントし、社内使用書は裏紙が定着し利用回数は促進した。今後も更に取り組みを社内に認知してもらうよう努力する。					
				③紙ゴミの分別による再資源化促進(業者委託)	○	ゴミ箱に捨てていたペーパー類をリサイクルボックス活用で、減らす事が出来た。今後も継続して再資源化率を上げて行きたい。					
		中島	再利用品	④ペットボトル・缶の分別	○	分別ボックスを増やして、より利用しやすくした為活動が推進できた。継続した教育により、社内だけでなく現場でも分別回収できるよう取組を推進していきたい。					
				⑤エコキャップ運動の参加	○	より分別しやすい配置により回収できた為、協力する事が出来た。継続して運動に参加する。					
				⑥紙コップ以外の再使用できるコップの使用	○	社内で使用していた紙コップを廃止した。継続してグラスの使用をしていく。					
		行田	事務用品類	⑦FAXのPDF化検討	×	社内メールと掲示板を利用して社内ではペーパーレス化推進しているが、対社外が難しい。今後取引先等にエコアクションの理解を求めて、協力を呼びかけていきたい。					
				⑧事務用品の集約化購買	○	概ね、事務所で一括購入している。継続していく。					
				⑨封筒・クリアファイルの再利用	○	概ね、事務所で実施している。継続していく。					
				取組後評価(原因)		受注量に比例してコピーの枚数が増えた。裏紙の再使用は、スムーズに移行できた。					
		今後の取組					事務所内は活動が遂行されてきた。継続してリサイクル分別意識の維持を行い活動する。				
		建設現場	現場従事者			①混廃棄物の分別化 検討	○	混廃から金属・プラは分別できている。継続して分別項目検討していきたい。			
	②分別ゴミのリサイクル率の向上を図る					○	再資源化率 +0.63%の結果 最終処分量削減 -93.04t になった。再資源化率を上げて、最終処分量を減らせるよう努力する。				
	③産廃をマニフェストにて確実に把握・記録					○	達成された。 2018年電子マニフェスト導入検討に向け社内計画。				
	④仮設資材、用具のリユース化 検討					×	立て看板等は、再利用。その他検討はしているが、実施にはいたらなかった。元請が有る仕事の性質上導入は困難。提案は引き続きする。				
	⑤金属ゴミの分別による再資源化促進(業者委託)					○	達成された。 リサイクル率の高い回収業者の選定の検討していきたい。				
	取組後評価(原因)						2年連続で最終処分量減 再資源化率向上。				
	今後の取組						分別の方法を検討し、継続して意識の維持を行い活動する。				

6-4. 環境活動計画の評価と次年度の取組

目的	区分	担当	種別	取組内容	評価	取組結果(原因)
						次年度取組内容
環境配慮	特定工事	現場従事者		①特定工事での施工計画への反映	×	今回は指定工事が無かった。 今後対象する工事があったら、検討提案していきたい。
				②環境配慮工事の提案	○	元請・施主様と検討しながら、配慮した工事を実施した。 継続して検討すると共に、施主・工事発注元に対しても提案をしていきたい。
				③エコ商品の提案	○	元請・施主様と検討しながら設備用品給湯商品などの利用があった。 継続して検討すると共に、施主・工事発注元に対しても推進提案をしていきたい。
				取組後評価(原因)		工事の設計反映。提案は 実施にはいたらなかったが、エコマークの商品利用が提案できた。
				今後の取組		継続して検討するとともに、施主 工務店等に対しても提案活動する。
排水量の削減	水使用量	各自	水廻り関係	①節水表示	○	水廻り箇所に節水ポップにて協力した。 今後は、さらに啓蒙活動する。
				②洗車時節水	○	洗車等にこまめに水を止めて節水に努めた。 継続して使用する。
				③漏水の定期的チェック	○	トイレのフロートと流しの蛇口水漏れ箇所修理。 継続して活動する。
				④事務所内の洗濯まとめ洗い	○	衛生面を考慮して長い期間汚れ物を置けなかった。洗濯コースを節水にした。 継続して活動する。
				取組後評価(原因)		掲示等で節水に努力した結果 -33m³ になった。
今後の取組		今後も節水の啓蒙 掲示等で意識向上に努める。				
地域貢献		社員一同		①近隣道路清掃	○	継続して活動が実施できた。 継続して活動する。
				②現場道路等清掃	○	常に近隣に配慮して整理整頓清掃心掛けた。 清掃美化活動を今後も進めていきたい。
				取組後評価(原因)		毎週月曜日の全社員による近隣の清掃活動と、一日一回事務員の近隣清掃を実施した。
				今後の取組		継続して活動する。

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

1. 環境関連法規の遵守状況

当事業所に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

確認日 H 29. 7. 1

法規・条例・規制	遵守事項	備考	遵守確認結果
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃棄物排出委託基準	指定業者との契約確認	○
	産業廃棄物収集運搬業の許可・更新	H29.12.12まで有効 5年毎	○
	廃棄物マニフェストの保管	A・B2・D・E票 5年間	○
	業者からB2・D票期間内返却	B2=10日・D=90日以内	○
	最終処分終了後E票期間内返却	180日以内	○
	上記票の返却されない時	30日以内知事報告	○
	マニフェストの年間集計知事報告	毎年6/30 東部保健センター	○
	廃棄物保管場所標識	掲示板設置60×60cm	○
	廃棄物の悪臭・飛散防止	車両荷台にシートを被せる等	○
建設リサイクル法	分別解体等及び再資源化等の実施・報告・記録	分別解体等の届出・通知	○
		廃棄物のリデュース資材・発生土等のリユース・リサイクル	○
騒音・振動規制法	特定建設作業の届出 基準値の遵守	特定建設作業の市へ7日前届出	○
家電リサイクル法	特定家電の廃棄抑制、廃家電排出の適正処理委託支払の責務	取引業者へ引渡し 料金支払 リサイクル券保管	○
資源有効利用法	OA機器の引取業者への引渡し	適正処分料金の支払い	○
大気汚染防止法	粉塵の防止対策	散水・養生材等の活用	○
グリーン購入法	環境物品の購入及び工事材提案	事業者の一般的責務	○
自動車リサイクル法	引取業者への引渡し	リサイクル料金の支払い	○
富士廃棄物処理条例	事業者自身の責務	廃棄物の適正処理	○
浄化槽法	浄化槽設置又は構造変更届け 浄化槽の廃止届け	知事に届出	○
		30日以内知事に届出	
静岡県生活環境の保全等に関する条例	特定産業の届出	規制基準の遵守	○
上下水道法	各市町村の法令を確認	必要書類提出	○
高圧ガス保安法	保安の遵守	定期保安検査	○
液化石油ガス法	保安の確保及び取引適正化	消費施設の定期検査・書類保管	○
建設業法	指定業種・資格者の申請	5年毎の更新	○
学校環境衛生法	VOC 基準値の遵守	規制基準の遵守	○
フロン排出抑制法	回収機器業者に引き渡し	適正処理	○

2. 違反、訴訟等の有無

関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟はありませんでした。

8. 緊急事態の想定及び対応マニュアル

1. 緊急時対応活動指針

各部署定時ミーティング時に、事例や経験などから想定される事態を話し合い必要に応じて、その都度マニュアルを作成し全社員に周知する。

2. マニュアル作成の目的

マニュアルに基づき不定期に関係スタッフを集め、訓練を行い、訓練記録を作成保管し、情報を共有する。又、訓練後ミーティングに依り、課題を話し合い緊急対応時の質の向上を図る

3. 企業理念

地域の環境保全に貢献できる企業を目指す。

【想定 1】

想定される緊急事態	掘削重機からの油漏れ
緊急事態の発生原因	掘削重機からの油漏れ
環境に及ぼす影響	・土壌汚染　・水質汚染　・火災
発生後の初動対応	・重機の安定確認後速やかに停止。現場の安全確保。 ・工事責任者へ報告し指示を確認。
環境上適正な応急措置	・オイルマット等で流出した油を吸収させた後中和剤を撒く。 ・重機損傷部分にテープ等を巻き、さらにオイルマット等で覆い流出拡大防止を行う。 ・工事責任者はメーカー又は修理業者へ修理依頼をする。
発生時に必要な資機材	・オイルマット等油分を吸収できる資材　・中和剤(BY・FAR-Z)　・消火器
予防方法	・重機定期点検の実施　・重機使用前点検の実施　・作業時安全確認
対応訓練	・報告及び連絡作業の確認訓練　・測定機の適正使用訓練

【想定 2】

想定される緊急事態	クロスコネクション
緊急事態の発生原因	加圧装置修理時に逆サイホン作用が発生
環境に及ぼす影響	・水質汚染　・関連する住戸への給水供給停止
発生後の初動対応	・関連住民への周知　・原因箇所の確認 ・工事責任者へ報告し指示を確認。
環境上適正な応急措置	・原因となる状態を改善する。 ・各系統ごと管内洗浄作業を行う。 ・収束した後残留塩素濃度測定を行う。 ・工事責任者は行政関連部署に報告し指示を確認。
発生時に必要な資機材	・配管工具、給水ホース　・残留塩素測定機(DPD・クロステスター)
予防方法	・断水工事周知の徹底　・逆流防止弁等の有無の確認
対応訓練	・報告及び連絡作業の確認訓練　・測定機の適正使用訓練

【想定 3】

想定される緊急事態	埋設ガス管の破損
緊急事態の発生原因	重機で道路掘削時給水管に隣接するガス管に接触
環境に及ぼす影響	・火災 ・爆発 ・周辺住民へのガス供給停止
発生後の初動対応	・重機の安定確認後速やかに停止。現場周辺を隔離し安全確保。 ・工事責任者へ報告し指示を確認。
環境上適正な応急措置	・損傷部分を水分を含ませた布で覆いガス噴出を抑える。 ・工事責任者は占有物件管理者(ガス供給会社)へ報告し指示を確認、又緊急出動の要請
発生時に必要な資機材	・大きめな布、ウエス等 ・バリケード
予防方法	・占用物件の位置等綿密な調査、確認の徹底 ・作業時安全確認の徹底
対応訓練	・報告及び連絡作業の確認訓練 ・噴出したガスの応急停止訓練

【想定 4】

想定される緊急事態	需要家のお宅、もしくは近隣での火災が発生した場合
緊急事態の発生原因	火災
環境に及ぼす影響	・炎熱による周辺家屋や自然への被害 ・温室効果ガスの放出
発生後の初動対応	・現場へ急行出来る社員によるガス止め処理。 ・可能であれば、容器の搬出。
環境上適正な応急措置	・火事被害拡大阻止の為容器搬出。 ・消防への呼びかけ容器への放水。
発生時に必要な資機材	・周辺への避難を促す為のメガホン ・搬出用ハンドカー
予防方法	・Siセンサー付コンロの推奨 ・火災センサー連動遮断装置をつける
対応訓練	・対応マニュアルの作成 ・現場対応実施訓練

【想定 5】

想定される緊急事態	配送中のガスボンベに異常が起きた場合
緊急事態の発生原因	車輛の運転操作ミス、容器の固定不良等
環境に及ぼす影響	・生ガスの放出
発生後の初動対応	・バルブの強固閉止
環境上適正な応急措置	・バルブ破損の場合、放出防止キャップにて止める ・バルブの閉止
発生時に必要な資機材	・皮手袋 ・放出防止キャップの装備
予防方法	・発車前の安全確認 ・積替え時時の緩み確認
対応訓練	・バルブ閉止措置の訓練

【想定 6】

想定される緊急事態	設置してあるガス器具に異常が起きた場合
緊急事態の発生原因	使用器具の経年劣化、誤作動。使用者の操作ミス。
環境に及ぼす影響	・燃焼不足によるCO発生 ・ガス起因による火災や爆発の発生
発生後の初動対応	・ガスを止める(バルブ・ガス栓の閉止)
環境上適正な応急措置	・使用禁止 ・仮設対応
発生時に必要な資機材	・CO検知器 ・ガス洩れ警報機
予防方法	・周知(使用方法) ・定期的な器具点検
対応訓練	・仮設工事訓練 ・正しいガス器具使用方法の教育実施

9. 代表者による全体の取組状況の評価と見直しの結果

実施期間 H 27.10.01～H 28.09.30

1. 代表者による評価

今年度のエコアクションの中でも、環境目標中の車両・重機用燃料使用の増加と産業廃棄物排出量の増加が見られます。これは、ここ数年設備工事が取り組んできました取引営業エリア拡大・工事現場の遠方化によるものであり、その対策として、車両日報の導入による各担当者の意識向上、工事現場での更なる廃棄物の分別管理。購入車両については、低燃費・HV車両を選択してまいりましたが、メーカーは25年もの間、エンジン開発を商用車に行って無かった事などから、なかなか数値達成が難しくなっております。

廃棄物管理においては細分化を図る為コンテナの台数増加を検討します。

エコアクション活動取組を始め、社員の環境や経費への意識は確実に高まり始めておりますが、業務の多忙さやお客さまのニーズから意識が希薄になってしまう場面も見受けられますが、

今後も全社一丸となり取り組んでいきたいと思っております。

2. 代表者による見直し変更の必要性の有無・指示事項

環境方針の変更		<input type="checkbox"/>	有	<input checked="" type="checkbox"/>	無
変更の必要性	特になし				
環境目標・環境活動計画の変更		<input checked="" type="checkbox"/>	有	<input type="checkbox"/>	無
変更の必要性	特になし				
環境経営システムの変更		<input type="checkbox"/>	有	<input checked="" type="checkbox"/>	無
変更の必要性	特になし				
その他変更の必要な項目		<input type="checkbox"/>	有	<input checked="" type="checkbox"/>	無
変更の必要性	特になし				

平成 29 年 7 月 1 日

株式会社 一商会

代表取締役社長 舘林俊晃

